

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和4年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -				
重点項目	学習活動			
重点課題	基礎学力の定着と全教員による公開授業の実施			
現 状	<ul style="list-style-type: none">・ITC機器の活用が進んだり、互見授業で情報を共有したりして、分かりやすい授業に向けて多くの取り組みが行われている。各教科・科目の担当者は生徒の実態を踏まえながら、指導方法の工夫・改善をさらに進めて分かりやすい授業の推進を図ることが求められる。また、生徒に自ら学習計画を立てて粘り強く実行し、自身の学習を評価(チェック・分析)し、次の学習に生かすことができる(改善)調整力を身に付けさせることも求められる。・公開授業をすることがある程度定着してきているが、全員が公開授業を実施できてはいない。・基礎力診断テストにおいて、義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が約30%(1月の基礎力診断テストで1学年37.0%、2学年25.5%)いて、その中でも最低レベルのD3ゾーンに1学年4.5%、2学年6.0%いる状況であった。Dゾーン、特にD3ゾーンの生徒は基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられる。中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。			
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析	全教員が公開授業を年に1度以上実施		
	<ul style="list-style-type: none">・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を15%以下とする。	<ul style="list-style-type: none">・全教員が授業を年に1度以上公開する。・他の教員の授業を年に1度以上見学する。		
方 策	<ul style="list-style-type: none">・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。・D3だった生徒に対して個別指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">・互見授業の実施率向上のために1・2学期に互見授業週間を設け意識向上を図る。・できるだけ1年生の授業を公開するように促し、新課程における授業、教材、振り返りのさせ方等の工夫を知る機会とする。・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。		
達成度	<ul style="list-style-type: none">・1年生2学期(1年生は1学期の実施なし) Dゾーン(3教科全体)の生徒の割合 34.9%・2年生1学期 Dゾーン(3教科全体)の生徒の割合 40.4%・2年生2学期 Dゾーン(3教科全体)の生徒の割合 31.1%	<ul style="list-style-type: none">・公開授業実施 教諭62人中48人が実施 公開授業実施率 77.4%・授業公開 教諭62人で延べ94回実施 1.5回/人(昨年度1.5回/人)・授業見学 教諭62人で延べ101回実施 1.87回/人(昨年度1.98回)		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・1年生においてはクラス単位で、夏休み前に基礎力診断テストについてのオリエンテーションを実施し、基礎学力の重要性と学習方法の確認を行った。・冬休み前には学科の協力を得て、2学期の数学の基礎力診断テストの結果がD3だった生徒に個別指導の補習を行った。個別指導のため質問がしやすい状況下で参加生徒たちは前向きな態度で学び直しに取り組んでいた。	<ul style="list-style-type: none">・公開授業の実施案内を掲示することで職員に知らせた。見学後には公開授業を実施した教員に感想を渡すフォーマットを用意した。気軽に互見授業が行われるように、それ以外の書類等の提出は求めずに行った。・夏休みに授業、作問、新課程における観点別評価についての意見交換会を実施したところ、多くの参加者が集まり、有意義な研修会となった。		
評 価	D	<ul style="list-style-type: none">・1年生のDゾーン(3教科全体)生徒の割合は34.9%で目標としていた15%以下には遠く及ばなかった。(昨年度1年生は22.8%)・2年生のDゾーン(3教科全体)の生徒の割合は1学期は40.4%、2学期は31.1%であった。1学期よりも全体の成績は上昇しているが、目標の15%以下には遠く及ばなかった。	C	<ul style="list-style-type: none">・全員が授業を公開することを目標としたが、実施率は77.4%であった。・授業見学については昨年度よりも1人あたりの平均の見学回数が減った。・情報交換会では新課程の評価について活発に情報交換や情報共有が行われた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・継続的な学習習慣を身に付けさせるためには、家庭学習も大切あると感じる。・学習の必要性を具体的に実感できればよいと思う。・生徒の「やってみよう」という気持ちを刺激することが、主体的に学習に取り組むきっかけとなるのではないかと。			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・公開授業や授業見学が行いやすい雰囲気、環境づくりを工夫する。・基礎学力をつけるための手段として用いている基礎力診断テストであるが、生徒が明確な目標を持って取り組むことができるようなさらなるしかけ作りを考える。・生徒に声かけをして基礎力診断テストの結果のフィードバックを丁寧に行い、PDCAサイクルをうまく循環させるように努める。・授業の改善、教員のICT利用等のスキルアップのためにも情報交換会や研修会の回数を増やす。			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活		
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSには、その普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にインスタグラムやツイッターに写真や動画を挙げてしまうことがみられ、指導を行うことがある。携帯電話使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数は、一昨年度は8件であったが、昨年度は11件発生した。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になるとも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。 		
達成目標	SNS上の指導件数	交通事故件数	
	・年間報告件数 5件以下	・発生件数(年間 3件)以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・事故発生時の状況や場所の教室掲示 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導 	
	達成度	・報告件数1件(1月末日現在)	・事故件数 7件(1月末日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業、終業式での注意喚起 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施(2学年) ・ST時での情報提供 ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業、終業式での注意喚起 ・自転車カギかけ運動(5月) ・自転車点検による安全意識の向上(5月) ・交通安全教室の実施(1年生 7月) ・ST時での情報提供 ・校風安全委員会での事故の原因と対策検討、教室での呼びかけ ・個別指導 	
	評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットパトロール報告件数は0件であった。 ・学校内のインスタグラム関連問題行為1件。 	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車対自動車6件、自損が1件となった。目標を達成することはできなかった。通学中の出会い頭の事故が多い。大きな事故には至ってはいないが継続的な指導を行う必要がある。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店等で問題行動を撮影した様子がSNSで話題になっているが、本校でもそういったことが起こらないようにご指導願いたい。 ・交通事故に関しては、多くは運転する側に責任があるが、自転車が加害者にならないように注意しなければいけない。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用やマナー、交通安全の事例について、新入生に対してオリエンテーションでしっかりとした情報提供をして注意喚起を行い、保護者の理解を得ることが必要だと感じる。その上で学期末に注意喚起を行う。さらに学年集会や個別指導など様々な対策を行っていく。 ・PTA、生徒会と連携を取りながら、生徒が自分のことだと捉え、自ら考えて行動できるよう話し合いの場を設定する。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身に付け、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学や選考会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約127名が民間企業への就職を希望している。 民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成28年度9人(116/125)、平成29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)、令和元年度3人(132/135)、令和2年度0人(111/111)、令和3年度8人(109/117)であった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数 1000回以上(一人平均3.9回以上)	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間) 新型コロナウイルス影響による求人縮小の影響を考慮 4人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 生徒用タブレットの有効活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室の延べ利用回数 <就職者> 進路指導室 142回 1F選択教室 94回 <進学者> 進路指導室 86回 合計 322回 達成度32.2% 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力診断テスト、クレペリン検査の実施。 外部講師および職員による面接指導。 求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適性の把握および学年との情報の共有化。 企業への求人依頼。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 日常的に生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 2学期から生徒一人一人にタブレットが支給され、情報が検索しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力診断テスト、クレペリン検査の実施。 職員による面接指導。 求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適性の把握および学年との情報の共有化。 企業への求人依頼。
評 価	<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を下回った。 就職者の57.3% 進学者の27.0% の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者と相談をしたり、情報の提供を受けたと回答し、就職者は、昨年度より上昇し、進学者は昨年より数値は下降した。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次選考での不合格者数が2名となり、目標を達成した。(工芸科1名事務職、デザイン・絵画科1名事務職) コロナ禍において、人と会話する、コミュニケーション能力を育成する大事な時間がとれなかったと思われる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 進学先や就職先は、どちらも良い進路先だと感じる。 工芸高校に対して、多くの求人や指定校推薦枠があることは喜ばしいことである。 ものづくりの現場を知っている指導者が少なくなっている。ノウハウだけでなく、人から人へ伝わる思いも大切だということも伝えて欲しい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 個人タブレット利用、ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で66人、進学者で94人が進路指導室の利用をしていない。 就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(8件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト) 各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。 早い段階で生徒が進路目標を設定できるような取組をする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動				
重点課題	学校行事および部活動の充実				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、コロナ禍で各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。 ・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は101%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は約26名(内8名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。 				
	達成目標	<table border="1"> <tr> <td>主たる行事において満足と回答する生徒の割合</td> <td>部活動変更生徒数</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>40名以内</td> </tr> </table>	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数	85%以上
主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数				
85%以上	40名以内				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努めて新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。 ・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 				
達成度	満足(A) + ほぼ満足(B) で評価 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 A62.4%+B33.5%=95.9% (昨年度比+2.3%) ・尚美展 A54.9%+B33.9%=88.8% (令和元年度比+4%) ・球技大会 A51.3%+B40.5%=91.8% (前年度比+1.4%) 	部活動変更生徒数 1学期→3学期 <ul style="list-style-type: none"> ・26名退部(12名部活動変更) ※昨年度21名退部(8名変更) 			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の内容は、生徒会執行部が事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに感染対策に留意した内容を精選し、計画を作成した。 ・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校では行わず、表彰伝達式を校長室で実施してHPにも掲載。 ・大会日程や入賞者一覧を校内で掲示。 ・職員朝礼で大会成績の報告。 ・退部した生徒の状況を把握。 			
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の満足度95.9% 前年度に比べ、2.3%増加した。前回は午前のみだったが、今回は1日を通して開催し、規模縮小ではあったがマスコット制作を行ったこともあり、満足度が上昇したと思われる。 ・尚美展の満足度88.8% コロナ禍で令和元年以来の開催であった。特に3年生にとっては初めての尚美展ということもあり1日のみの開催ではあったが満足度が高かった。 ・球技大会の満足度91.8% 競技種目を1つ増やして実施、前年度より満足度が増加した。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・全体の部活動加入率が高い。 ・今年度は26名の生徒が退部し、うち12名が新たな部活動に入部した。 			
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間、尚美展を開催することができなかったが、今年度開催することで3年生が経験することができてよかった。 ・来年度の尚美展は1、2年生が今年の経験を生かして、盛り上げていって欲しい。 ・学校行事については、少しでもコロナ禍前の状態に近づくように検討して欲しい。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。 ・職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。 ・生徒の意見をできるだけ反映することで、各行事に生徒が主体的に参加し、充実感や成就感が体験できるよう配慮する。 ・今後のコロナの状況に対して柔軟に対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。 ・退部者の確認とその後の学校生活の充実に図るための面接を充実させる。 ・女子運動部の活性化。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化			
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・今年度より、会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催し活発な議論の場とする。 ・PTA各行事への参加者は少ない現状である。 ・各委員長、副委員長が中心となり各委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。 ・今年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を目指す。 			
達成目標	PTA行事への参加者数	総会の出席者		
	前年度より10%増	出席率50%		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにPTAページを開設。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。 			
達成度	昨年度よりも、感染予防対策を行いながら実施事業は増えている。ただし、参加人数は目標値には届かないものと考えられる。	総会出席率 15%		
具体的な取組状況	今年度実施事業 ・さわやか運動(生徒指導委員会) ・進路関係情報ホームページ掲載(進路指導委員会) ・教養講座(能作見学)(生涯学習委員会) ・PTA通信発刊(3回)(文化・広報委員会) ・尚美展売店(執行部)	・今年度より土曜日の実施を取り入れる。参加しやすい日にはなったが、まだまだコロナ禍のため出席率は低ものと考えられる。		
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、執行部会で工夫し各行事をこなしている。 ・PTA通信は、新たに3回の発刊となった。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収まってからの評価が必要である。 		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担を軽減するために組織改革していることは評価できる。 ・PTA通信の発刊も円滑に進んでいるようで、次年度以降も取組を続けて欲しい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業の検討(コロナ禍において) ・PTA組織の再編成(役員負担の軽減) 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)